



名古屋ハリストス正教会

なごや「聖歌」だより4月号2012

今月の予定

聖歌練習 名古屋:毎主日後 半田:11日先備後

聖歌は神さまへの捧げものです。もうすぐ復活祭です。毎聖体礼儀後も練習します。名古屋も半田も「みんなで歌える」聖歌をめざしていますが、ブツケ本番ではなく、「みんなで練習」もしましょう。復活祭です。イサク金さんがパート別練習用CDを作ってくださいました。1日に聖歌隊の希望者に配布します。

名古屋指揮当番

1日ピーマン松島 8日マリア松島 15日全員、
29日エレナ広石

ズナメニイ研究会

今月はお休み。

知って祈ろう - 奉神礼は面白い 特別編

復活祭 喜びの贈り物

私たちは毎年当たり前のように復活祭を祝いますが、二千年前イエス・ハリストスが死んで復活したことを記念するただの年中行事ではありません。生まれ、いつか死んでいく「時」、毎年毎年繰り返される「時」。「時」は今、主の「すぎこし」によって新たなる時へと変えられました。

新しい時は始まった、始まっている、そういわれても、いくら本を読んでも、どんなに説明されても、主が死んで復活し、新しい時代が始まったことなど人間の知恵では理解できません。しかし「ハリストス死より復活し、死を以て死を滅ぼし、墓にあるものに生命を賜へり」という喜びの歌の渦のなかでは、主はが確かに復活し、その復活は私たちとともにあることが不思議と腑に落ち、その実感は小復活祭である毎主日の聖体礼儀の中で確信へと変えられてゆきます。

今回はアレクサンドル・シュメーマン神父の『世のいのちのために』(新教出版社、松島雄一訳)から「時の成聖」を抜粋紹介します。

1 1 1 1

「十字架によって喜びは全世界に臨めり」。……喜びは「全世界に」すなわち「この世のために」教会に与えられました。教会がその喜びの証人となり、喜びによってこの世を変容するためです。これがキリスト教の祝祭の機能であり、それが「時」の中に位置づけられている意味です。

復活祭の夜、祝祭に意味が与えられます。神学的説明や歴史的記念によってではありません。喜びそのものの贈り物として、神の国の新しい時へ与る喜びとして与えられます。復活祭の真夜中、聖職者と信徒の行列が聖堂を一回りして、漆黒のやみの中、閉じられた扉の前に立ち、「キリスト復活！」の宣言とともに扉が開かれ、パスハの祝祭が開始されます。ニッサの聖グレゴリオスが「昼よりも明るい」と言い、正教会が「光を輝かす救いの夜」と呼ぶこの夜を一体何と言ひ表せばよいでしょうか。そこにある唯一の現実喜び、しかも与えられた喜びです。

お 　　あだ
神は興き、その仇は散るべし



仇とは地獄です。鎖で縛られています。ハリストスがアダムの手を握って引き起こしています。

みな主の喜びに入りなさい
富める者も貧しき者もこの祭りに来なさい
神の慈愛の一切を受け取りなさい
もう誰も自分の貧しさを嘆いてはいけない
なぜなら普遍的な王国が現れたからである
(金口イオアン「復活祭の説教」口語訳)

そこにあるすべての祈りはこの喜びへの応答であり、その受容であり、その祝讃であり、それがまぎれもなき現実であることの承認です。

パスハは主のパスハなり
ハリストス・神は…我らを死より生命へ、
地より天へ移せばなり

今、天と地と地獄とは皆光に満たされたり
故に万物はその堅めなるハリストスの起きる
を祝うべし

我らは死の滅び、地獄の壊れ
新たなる永遠の生命の始めを祝い
喜びに堪えずして…

この扱ばれたる聖なる日はただ一つにして
安息日（スポタ）の王と君
祭りの祭り、祝いの祝いなり

嗚呼、大いにして至聖なるパスハ、
ハリストスよ
嗚呼、知恵と神の言葉と能力（ちから）よ
爾の国の暮れざる日において
我らをなお爾に親しく与らしめ給え

（パスハのカノン）

この夜与えられる喜び、夜を「昼よりも明るい夜」に変える光は、時全体の隠された喜び、またその究極的な意味となり、ついに「一年」は「キリスト教徒の一年」へと変容されます。復活祭の夜が明けるともう一つの朝、もう一つの夜、もう一つの新たな一日が始まります。時が再び始動します。しかし今や時は、他では決して味わえないあの真に終末論的な喜びの体験によって内側から満たされています。工場の陰気な壁に射す太陽の光、人々の口元に浮かぶ微笑み、雨もようの朝、ぐったり疲れた夜、すべてが今この喜びを指向しています。それらを飛び越えてその喜びを指し示すばかりではなく、そのような日常そのものが今

やその喜びの兆候、しるし、秘められた「現存」であり得るのです。

復活祭後の五十日間、私たちはパスハの喜びの内
に生活することを許されます。時を祭りとして体験
します。そして「最後の偉大な日」五旬祭に至り、
この世の現実の時の中に帰還します。信徒はこの日
の晩課から、復活祭以来初めて、跪いて祈ることを
命じられます。夜が近づいてきます。時と歴史の
夜、日々の努力の夜、疲労と誘惑の夜、生活の避け
られない重荷を担うべき夜が近づきます。復活祭期
は終わりました。しかしこの夜に入っていく私たち
は、終わりはすでに始まりに変えられたことを知っ
ています。すべての時は「聖神降臨祭後」となりま
す。（正教会では、この時から次の大斎期までの日
曜日を「聖神降臨祭後第何番目の主日」と呼びま
す）。神の国の喜びが、聖神の「平和と喜び」が時
に対して「働く」日々が始まります。「おお友よ、
ハリストスは言った。もはやいかなる分裂もない…」。

時は今や、始まりへと変えられた終わりの、完成
を告げる始まりの、その律動によって計られます。
教会は時のうちにあります。この世での信仰生活は
齋（ものいみ）です。すなわち、努力、犠牲、自己
否定、そして死の生活です。教会の使命はすべての
人々にとってのすべてとなることです。教会は第一
に、また何にもまして喜びの贈り物、聖神の芳香、
神の国の祝祭の現存です。

THE MYRRHBEARERS



マリヤとともに
在りし女どもは
夜明けより墓に來り、
石の移されたるを見て、
天使より聞けり、
永遠の光に居る者を
何ぞ人の如く死者の中に尋ぬる、
葬りの衣を見て、
急ぎて世界に傳へよ、
主は死を滅して復活せり、
人類を救ふ神の子なればなり。

（復活祭イパコイ）



ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料